

# オーダーメイド・シューズ

コバヤシ靴店

## 靴博士の講義付き。

靴は土踏まずと足の甲、かかとの三点で足を支える。「かかとが足に食いつくように包み込む。これが履きやすい靴の条件です」と話すのは、福島靖庸さん。大正十年創業、四代目だ。一般につま先の感覚や



店内に並ぶ靴は約50種類。福島さんの語る靴の来歴を聞くのも楽しい。

靴の横幅に注意が向かいがちだが、かかとのシルエットは一人ひとり微妙に違う。そのため、かかとのフィット感が福島さんの靴づくりのポイントになっている。革靴のベースは運動靴。初代の祖父が学生選手たちに当時貴重品だった野球、サッカーなどの運動靴を手づくりで提供していた。以来、四代かけて日本人の足を知り尽くす。

四十年前、父親の芳信さんが考案した男性用の赤い靴は新鮮で、アイビー・ファッションの若者たちがバイトで稼いだお金で買い求め、宝物のように抱えて帰った。今も履き継がれてロングセラーに。福島さんはメッシュのスケート靴タイプを開発した。メッシュを手で編んで



「ワニ」と呼ばれるベンチのような専用道具で革を引っ張り、止め釘を打っていく。かかとのシルエットは木型を駆使して慎重に整えていく。

いく労作だ。店に並ぶ作品は五十年アイテム。四代が試しながら少しずつ増やしてきた。「理想の靴に正解はありません。履くたびに愛着が強くなる靴でしょうか」。四・五坪の店は靴の小宇宙。問われれば、靴の博学を惜しげもなく披露する。長年の常連たちは福島さんの心地よい「博学」を履いているのかもしれない。

身にまとう技



カンガルー革のシューズ。底も革底。軽くて幅広い年齢層が愛用している。7万円。



大阪市北区曾根崎2-10-29  
TEL.06-6311-7368  
11:00AM~8:30PM、日曜・祝日12:00PM~5:00PM 第3日曜日定休  
\*オーダーメイド・シューズ(メンズ)は1足7万円~38万円。注文から1カ月ほどで完成する。